



お弁当を受け取り「夕食にふたを開けてみるのが楽しみ」と笑顔で感謝する千葉イトさん<sup>④</sup>

## 町のコロナ対策支援事業 まごころ弁当の宅配開始

まごころ弁当の出発式は7月7日、町保健センター前で行われ、関係者ら約20人が出席しました。

町社会福祉協議会の辰柳敬一会長は「お弁当を届けながら会話を交わし、笑顔も届けてください」とあいさつ。注意事項を確認した配達ボランティアらは町内9地区に分かれ、131世帯にお弁当とくずまき高原牛乳を届けました。

まごころ弁当は、町内13の飲食店などが交代で製造。希望した75歳以上のみの世帯に毎月1回、来年3月まで無料で届けられます。

## 葛保が交通安全に一役 警察署長が感謝状贈呈

7月2日、葛巻保育園（茅森幸子園長、園児61人）が交通安全活動に協力したとして、岩手警察署長から感謝状が贈られました。

同園では「交通安全ふれあい訪問活動」として、一日警察署長を委嘱された園児らが各家庭を訪問。手作りのカードなどを手渡し「交通ルールを守ろうね」と交通事故防止を呼び掛ける活動を行いました。

西村結菜ちゃん（5歳）は「びっくりしたけど、自分たちがもらえてうれしかったです」と笑顔で話してくれました。



岩手警察署長から贈られた「感謝状」を手に喜ぶ葛巻保育園の園児たち

## まちなか検討部会 蔵の活用話し合う

くずまき観光地域づくり協議会（くずまき型DMO）の第1回まちなか検討部会は7月17日、町家（旧遠藤邸）で開催され、部会員ら15人が出席しました。

これまでの取り組みを確認後、グループに分かれて役場前の「蔵」と周辺エリアの利活用について協議。蔵の白い外壁を利用したミニシアターや芝生を植え、周辺整備を進めて活用の幅を広げるなど、さまざまな意見が出されました。今後、町が進める「歩きまわりたくなるまちなか」の実現に向け、取り組みが進められます。



役場前にある「蔵」の利活用について話し合う部会員ら



校庭で季節を感じる植物を探す児童たち  
※推敲…出来上がった作品を見直して、さらに良い句にすること。

## 江刈小で俳句教室 季節を17音で表現

江刈小学校（越智秀樹校長、児童29人）の俳句教室は6月17日、葛巻俳句会の齋藤誠子さんを講師に開催されました。

児童らは季節を感じる植物に目を向け、鳥のさえずりに耳を澄ませ、指折り数え17音で表現。その後、作品をみんなで推敲しました。

幼い頃に聞いていた風鈴の優しい音色を思い浮かべ「しあわせのおとずれ願うあ風鈴」を詠んだ前野匠音さん（6年）は、推敲後「みんなの作品には、友達との思い出が入っていて良かったです」と俳句の味わいに触れたようでした。

## 初めてのバイオリン学習 練習繰り返し自信付ける

7月16日、総合センターでバイオリン学習が行われ、小屋瀬保育園と五日市保育園の園児ら13人がバイオリンの構え方や弦の弾き方などを学びました。

初めてバイオリンに触れる子どもたち。緊張した面持ちで練習をしていましたが、音を出せる頃には扱いにも慣れ、自分から姿勢を正したり持ち方を調整できるようになっていました。

小澤美羽ちゃん（5歳）は「きれいな音が出た楽しかったです」と使用したバイオリンを丁寧に布で拭き取り、優しくケースに戻していました。



バイオリンの構え方を真剣な表情で聞く園児たち<sup>④</sup>と初めて音を奏でる小澤美羽ちゃん

## 葛高生主体的に学習 町の取り組み参考に

7月17日、県立葛巻高等学校（木村基校長、生徒131人）では「総合的な探求の時間」により、テーマごとに分かれた生徒たちが町内の職場を訪問しながら学びを深めました。

役場には移住体験ツアーや観光イベントについて調べるグループなどが来庁。独自で作成した旅行プランへの助言を求めたり、イベントを企画する際の注意点など、積極的に質問していました。関知諒さん（2年）は「町の詳しい取り組みや課題が聞けたので参考にしたい」とこれからの学習に向け意気込んでいました。



職員の説明にメモを取りながら真剣に耳を傾ける葛巻高校の生徒たち